すこやか

第26号
平成26年3月
発行

岐阜県総合医療センター
地域医療連携センター部

退官のご挨拶

岐阜県総合医療センター　理事長兼院長　**渡辺 佐知郎**

岐阜に再び春が巡ってきました。自然豊かな岐阜県の四季の移り変わりの中に美濃の田園には春の花が開花し春の来訪を告げています。飛騨の山々にはまだ雪が残っていますが野には桜の蕾が膨らんでいます。

岐阜県総合医療センターと開放型病床共同医またかかりつけ医の先生がたとの連携は年々連携が向上し、当センターでは病診連携は紹介率70%、逆紹介率80%の好成績で順調に進んでいます。これも医師会並びに先生方のご支援の賜物と存じます。

私儀渡辺は3月31日に理事長並びに院長の任期満了にて退職させていただきます。本当に皆様のお陰にて無事に退職できますことを厚く御礼申し上げます。昭和53年4月1日に当センターに第一内科医長兼循環器科医長として赴任させていただきました。其の間36年の年月がすぎました。「光陰矢の如し」であります。

36年の間医療の進歩は目覚しく医療制度も大きく変わりました。36年の間循環器科を中心に内科の診療に従事し、検査部,救命救急センター、病診連携部、臨床研修管理委員会などを担当し様々な経験をさせていただきました。特に力を入れましたのは当センターの敷居をいかに低くし患者さんがかかりやすくまたかかりつけ医の先生方が救急患者さんを円滑にご紹介していただくことに尽きました。

当センターのプリンシプルの「断らない医療」を職員一同深く認識し実践しております。またがん診療連携拠点病院につきましては設備やシステムの改善がすすんでおります。総合周産期母子医療センターとしての重責を果たし母とこども医療センター全体の運営も産婦人科医会の先生方、小児科医会の先生方のご協力で順調に運営され小児救急も円滑に運営されています。

看護部門は看護師の充足、認定看護師等の研修に力をいれ患者さんに優しい看護力を養ってきました。40人に近い薬剤師の配置と薬に関する医薬連携、患者さんへのお薬相談システムの充足に力を注いできました。独立法人化後の病院経営、病院事務の改革にも事務局長ともども力を注いでいます。

「病院は患者のために立てられた」というのは私と次期理事長兼院長予定の滝谷院長代理の共通の認識であります。ぜひ今後も岐阜県総合医療センターにご支援を頂きたく存じます。どうも今まで本当にありがとうございました。

連携医の紹介

永田産婦人科

院長　永田 哲朗

院長　永田 哲朗

医師　鈴木 由佳

当院は、JR高山線の那加駅または名鉄各務原線の新那加駅から南に歩いてすぐの所にあります。各務原市の一番西（岐阜市寄り）に位置し、東海北陸道各務原インターから北東に5分ぐらいの所です。県総合医療センターからは、西に車で10分ほどの所にあります。

院長の永田哲朗は二代目になります。昭和32年故永田二朗によって設立された永田産婦人科は平成26年で57年目になります。昭和の時代から平成の現代に至るまで、一貫して地元に根づいた産婦人科医療に尽力してまいりました。現在若手女性医師を加えて、各務原市の周産期医療を担う覚悟で皆頑張っております。

診療内容は産科・婦人科全般です。妊娠・出産に関する産科医療に加えて、婦人科では不妊症、更年期、子宮癌検診などに力を入れています。

当院の特徴としましては、各務原市のみならず周辺地域から妊婦さんが集まってきている関係上、必然的に周産期医療に重きを置かざるをえません。妊婦さんに安全で安心できるお産を提供するために、次のようなことに努めております。

①医師は私（院長）と女性医師2名の体制で診療を行ない、他に当直や手術に3～4名の非常勤医師がおります。

②妊婦さんの超音波検査に力を入れています。超音波専門の検査技師（超音波検査師3名）を養成し、医師と協力して超音波検査を行なっています。

③助産師を多く外来や病棟に配置しております。現在非常勤を含めて13名ほどの助産師が勤務しております。妊婦健診に助産師外来を設けたり、母親教室やパパ&ママ教室を行なうことで、妊娠中から妊婦さんに関わるようにしています。また分娩も異常のない産婦にはできるだけ助産師中心のケアーを提供しております。もちろん安全を確保するために医師はいつもバックアップをしております。

④助産師養成の実習病院として、平成19年より岐阜県立衛生専門学校助産学科の学生さんを受け入れております。卒業生の5名ほどが当院に勤務しており、今では一人前の助産師となって働いております。

現在各務原市では出産のできる医療機関が2軒の診療所のみ（以前は総合病院1軒と診療所7軒）となってしまい、担当診療所の負担が増えています。その中でハイリスクの妊娠に関しては県総合医療センターには産婦人科のみならず新生児センターにも大変お世話になっております。手遅れにならないよう早め早めにお願いするよう心がけておりますが、時には急のお願いになることもあり、いつも快く引き受けていただき大変ありがたく思っています。またその転帰を知ることによって大変勉強になると同時に当診療所のレベルアップにも繋がっております。

当院は各務原市内でも県総合医療センターに一番近くに位置しており、3次医療機関として非常に頼りに思っております。どうぞこれからもよろしくお願い申し上げます。

名　称　医療法人四葉会　永田産婦人科
医　師　永田哲朗　鈴木由佳（他非常勤数名）
住　所　〒504−0968 各務原市那加西野町190番地
ＴＥＬ　(058) 382-0058　FAX (058) 382−3711
ＵＲＬ　http://www.nagataclinic.jp/

診療科　産科婦人科
診療時間　平　日　午前9:00～12:00
　　午後3:30～ 6:00
　　土曜日　午前9:00～午後1:00
受付時間　診療開始の15分前から終了15分前まで
休診日　木・土曜日午後、日曜日、祝祭日
駐車場　70台

診療科の紹介

歯科口腔外科

歯科口腔外科部長　**石丸 純一**

歯科口腔外科外来スタッフ

歯科口腔外科では親知らずの抜歯や顎関節症の治療を中心としながら、歯性感染症、口腔顎顔面領域の外傷、炎症、嚢胞、腫瘍、口唇口蓋裂などの奇形、変形（顎変形症）、歯肉癌・舌癌などの悪性新生物、口腔粘膜、唾液腺疾患などを主に外科的に治療しております。一方近年、歯周炎などの口腔疾患が心疾患・糖尿病・誤嚥性肺炎・早産・骨粗鬆症などの全身疾患に影響を与えていることが指摘されており、当科はすべての癌や心臓の手術予定患者を対象とした周術期および癌化学・放射線治療時の口腔ケアに責任があります。一般的に周術期においては全身麻酔時の気管内挿管で口腔内常在菌が気道内に迷入する恐れがあり、術後の誤嚥性肺炎などを起こす可能性があります。また、術後の絶食中には口腔常在菌が増加するため、感染症を引き起こしやすくなり術後感染の温床となっております。そのため当科では、手術や癌化学療法、癌放射線療法を受けられる患者様を対象に、周術期口腔管理を行う専門外来を開いております。口腔に起因する全身的な合併症の軽減を目的として、歯科医師による診察・処置や歯科衛生士による口腔清掃指導・専門的口腔ケア（機械的歯面清掃）を行っており、退院後にはかかりつけや地域の歯科医院へ紹介し、病診連携を推進し継続的な口腔管理を行えるようにしており医科歯科連携に貢献しております。

周術期口腔ケア外来

歯科衛生士による専門的口腔ケア

呼吸器内科

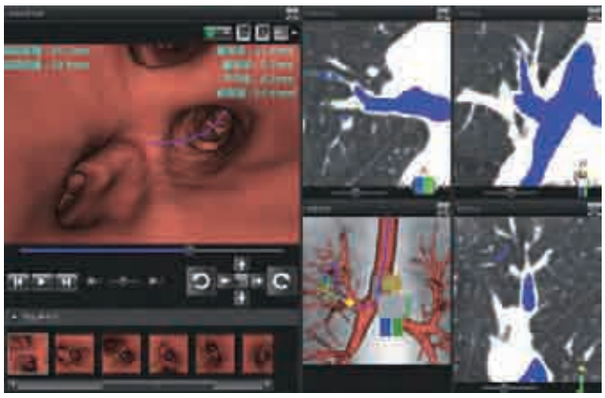
呼吸器内科部長　**浅野 文祐**

ナビゲーション気管支鏡

胸部レントゲン検査、特に胸部CTでは肺に多くの小結節影が発見されます。この中から早期の肺癌を診断することは、呼吸器科医にとって重要な課題となっています。当科では、仮想気管支鏡を利用したナビゲーション、極細径気管支鏡（外径2.8mm）、気管支腔内超音波等を利用した先進的な呼吸器内視鏡診療を行っています。これまでに多くの海外雑誌に当科の論文が掲載されていますが、2013年には呼吸器領域で最も権威がある雑誌（AMERICAN JOURNAL OF RESPIRATORY AND CRITICAL CARE MEDICINE）に掲載されました。仮想気管支鏡は胸部CTデータから作成される画像で、この画像を使った最新のナビゲーションシステムを使うことで、短時間で気管支鏡を病変に誘導することができ、診断率を向上することができます。胸部レントゲンで異常が疑われましたら、当科にご紹介いただけると幸いです。

呼吸器内科スタッフ

呼吸器内科、外科多職種合同カンファレンス


最新のナビゲーションシステム　図中央下:気管支樹上に病変（緑の丸）までの気管支ルート（青線）が表示されている。図左:仮想気管支画像上に表示された病変までのルート（青線）に従って、気管支鏡を誘導する。

新しい取り組み

母乳育児推進・赤ちゃんにやさしい病院（Baby Friendly Hospital;BFH）の取り組み

医監　山田新尚

岐阜県総合医療センターの担っている大きな使命は周産期医療であります。岐阜・中濃、西濃、東濃、飛騨の各圏域を包括した周産期医療システムの中で平成20年2月に総合周産期母子医療センターをオープンしました。平成24年には合併症妊娠や異常妊娠、多胎妊娠、胎児異常等を含めた559件の分娩を取り扱いました。飛騨地区からのヘリコプターによる8件を含めた164件の母体搬送をうけいれることができました。今後も地域の皆様が安心して子どもを産み、育てることができるよう努力をし続けることをお約束申し上げます。

1989年、WHO・ユニセフは、「母乳育児の保護、促進、そして支援」するために、産科施設は特別な役割を持っているという共同声明を発表しました。世界の全ての産科施設に対して「母乳育児成功のための10カ条」を守ることを呼びかけ、この10カ条を長期にわたって遵守し、実践する産科施設を「赤ちゃんにやさしい病院」として認定することとしています。わが国では日本母乳の会がユニセフから「赤ちゃんにやさしい病院」を推進する役割を委託され、毎年8月1日から7日を「世界母乳育児週間」と定め、その活動を奨励する様々な催しが行われています。

さて、当院は従来より健全な子どもを産み育てる母乳育児支援活動に取り組んできましたが、2009年には母乳育児ワーキンググループを立ち上げ「赤ちゃんにやさしい病院」を目指すことになりました。

当院では母乳育児支援の方針を以下の如く定めました。

1.「母乳育児成功のための10カ条」に基づきケアを展開し、「母乳代用品のマーケティングに関する国際基準」を遵守します。
2.妊娠中からの母乳育児支援を行います。
3.出産後に早期皮膚接触を行い、母子の早期接触及び早期授乳に努めます。
4.産後入院中のお母さんへの母乳育児支援を行います。
5.赤ちゃんへの基準に沿ったケアを行います。
6.退院に向けての支援を行います。
7.退院後も継続的に母乳育児支援を行います。
8・職員が母乳に対して興味や知識が高まるような学習会を開催します。
9.BFHI推進委員会を設置し、継続的に母乳育児支援に取り組みます。

私たちは、これらを常に念頭に「赤ちゃんにやさしい母乳育児推進」を進めており、地域と連携し、赤ちゃんにやさしい、お母さんにやさしい、そして家族にやさしい病院を目指しております。赤ちゃんにやさしい病院とは赤ちゃんに関わる全ての方々にやさしい病院のことを意味しています。

これらを実現できるよう病院全職員一丸となって「赤ちゃんにやさしい病院」を目指しています。

<母乳育児成功のための10カ条>
WHO・ユニセフ共同声明

❶母乳育児の方針を全ての医療に関わっている人に、常に知らせること
❷全ての医療従事者に母乳育児をするために必要な知識と技術を教えること
❸全ての妊婦に母乳育児の良い点とその方法をよく知らせること
❹母親が分娩後30分以内に母乳を飲ませられるように援助すること
❺母親に授乳の指導を十分にし、もし、赤ちゃんから離れることがあっても、母乳の分泌を維持する方法を教えること
❻医学的な必要がないのに母乳以外のもの、水分、糖水、人工乳を与えないこと
❼母子同室にする。赤ちゃんと母親が1日中24時間一緒にいられるようにすること
❽赤ちゃんが欲しがるときに、欲しがるままの授乳を進めること
❾母乳を飲んでいる赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと
❿母乳育児のための支援のグループ作りを援助し、退院する母親に、このようなグループを紹介すること

Topics 1 エキシマレーザーによる冠動脈形成術

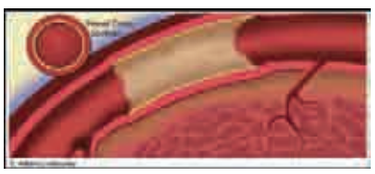
循環器内科 岩間 眞

当センターでは、平成25年7月30日に岐阜県内で初めて、エキシマレーザーによる冠動脈形成術を実施しました。エキシマレーザー冠動脈形成術とは冠動脈に挿入されたカテーテルの先端からでるエキシマレーザーをつかって閉塞した血管を開通させる治療法です。欧米ではすでに数万例に使用されており、安全性の高いものとされています。エキシマレーザーの特徴は血栓などの柔らかい病変の蒸散作用といわれております。急性冠症候群の主な病態は血栓で、エキシマレーザーはこの血栓性病変に有効であると報告されています。また、今まで治療困難であった冠動脈バイパス術後病変、ステント再狭窄病変などに対しても有効性が報告されております。エキシマレーザーにより従来よりも治療の選択肢が広がり、さらに有効性の高い治療を安全に提供できると考えております。傷口は今までのカテーテル治療と同じです。急性冠症候群など該当患者様が見えましたら、ご紹介をいただけると幸いです。

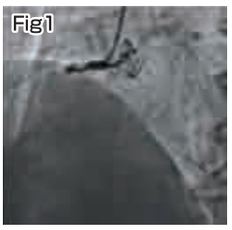
①動脈性硬化性病変に対して、ガイドワイヤーを通過後、レーザカテーテルを病変まで進める。

②病変部にてレーザエネルギーを照射する。

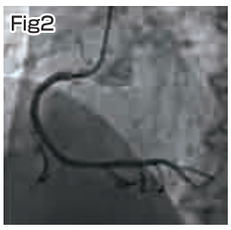
③病変部を通過するまで、レーザカテーテルを進める。



④レーザカテーテルを抜去し、終了する。



血栓性病変
従来の血栓吸引カテは通過せず



エキシマレーザーを施行、Stent留置し、遅延造影無く終了

Topics 2 胃がんに対するロボット支援腹腔鏡下胃切除術

消化器外科部長 長尾 成敏

平成25年11月胃癌に対しロボット支援腹腔鏡下胃切除術（ダビンチ手術）を開始しました。開腹手術と腹腔鏡による手術、そしてダビンチ手術について解説します。

手術といえば、お腹を大きく切り開いて内臓を切り取るというイメージをお持ちと思います。腹腔鏡というのはお腹にポート（筆程度の太さの筒）を差し込み、中に空気を入れてドーム状に膨らまして空間をつくり、内部をカメラでのぞきながらおこなう治療のことです。長い手術道具を挿し込みカメラの移す映像を見ながら内臓を切り取っていきます。手術の傷は、数か所のポートの穴のみとなり、術後の痛みや傷痕は小さくすみます。腹腔鏡による手術は胆石症からはじまり、大腸癌や胃癌・食道癌などにも行っています。当院では、半数近い手術がこの腹腔鏡で行われるようになりました。

腹腔鏡の手術は、開腹手術とちがった慣れ（高度な技術）が必要で、外科医は日夜訓練しています。写真のフクロウの彫り物をみてください。フクロウのお腹のなかに小さいフクロウが彫ってあります。小さなフクロウを彫るにはかなりの技術が必要だと想像できます。腹腔鏡の手術もこれに似た技術が必要です。

ダビンチはお腹の中で道具が手のように動くロボットです。コンピューターで制御され離れたコンソールで操作します。外科医はコンソールの3D画面に映しだされた手術部位を観ながら、あたかも自分の手がお腹の中にあるようなイメージで手術します。お腹の中で道具が手のように自由にうごくため、ストレスがなく、より精緻な手術が可能になります。

開腹手術から腹腔鏡手術へそしてダビンチ手術へ、2足歩行から自転車へそして自動車へといったイメージでしょうか。ダビンチの機械としての進歩に加え使い方もどんどん拡がっていくでしょう。無痛のうちに病気を治す。この理想に一歩近づいた気がします。

チームの紹介

栄養サポートチーム
(Nutrition Support Team : NST)

栄養センター NST部長／外科部長　河合 雅彦

栄養管理は、すべての患者にとって疾病治療の基本です。

適切な栄養管理によって低栄養が改善し早期に病状が回復すると言われています。そればかりでなく、褥瘡の予防・改善、在院日数の短縮や薬剤使用量の減少、院内感染等の感染症の減少にも繋がります。

当センターのNSTは、平成16年3月に組織され、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士の栄養についてトレーニングを受けたスタッフにより構成されています。積極的な栄養管理が必要と評価された患者さんに対して週1回カンファレンスを行い、患者さんの病態を把握し、多職種が専門的な視点から検討を加え、食事だけでなく薬剤も含めたトータルな栄養について主治医に提案をしています。NST介入患者数は年間約450件になっており、特殊な栄養管理をした患者さんが自宅退院や転院する場合には、栄養に関して継続的な治療ができるようにNSTサマリーをお送りしています。

NSTカンファレンス

その他、医師や看護師等に対してのNST勉強会開催やNSTだよりの発行をして、病院全体として栄養について学ぶ機会を設けています。

患者さんが早期に病気から回復できるように今後もNST活動を発展させていきたいと考えています。

患者さんの声

ダヴィンチ 胃がん手術を受けました

石原雄倪子

昨年の秋、がん検診で早期の胃がんが見つかりました。紹介状を持って岐阜県総合医療センターへ行き、消化器外科の長尾先生に診ていただきました。先生はダヴィンチでの手術を勧めて下さり、いろいろな資料をもとに丁寧にわかりやすく説明をしてくださいました。でも即答できませんでした。最新の技術で行う手術ということに不安もありました。家に帰って主人にも相談し、ダヴィンチで手術をしていただくことに決めました。

11月7日　胃の3分の2を切除しました。術後はあまり痛みもなく、翌日には少し歩けました。傷口の痛みもなく、日に日に良くなっていくのを実感し、お陰様で10日間で退院できました。現在3か月を過ぎようとしていますが、もうすっかり元気になりました。ダヴィンチで手術していただいて本当に良かったと感謝しています。

出産体験談

岩佐 佳代子

入院中は赤ちゃんが泣くとすぐに来てくれて母乳の飲ませ方を丁寧に教えてもらえたので、退院するころには上手に母乳が飲めるようになりました。

野菜を使ったおやつもおいしくて、子どもが大きくなったらこんなおやつを作ってあげたいなと思いました。

退院後も母乳で育てることができ、病気することなく丈夫な子に育ってくれています。改めて母乳のすごさを実感しています。

妊娠中から産後まで親切にしてくださりありがとうございました。

新しい部門の紹介

核医学診療センターのご紹介

核医学診療センター　野澤 麻枝

核医学診療センターは病院の地下1階にあり、院内の核医学検査を担当しています。核医学検査はアイソトープ検査またはRI検査とも呼ばれており、ごく微量の放射性物質(RI)を含む薬剤を用いて病気を診断する検査です。PET-CT、骨シンチ、心筋シンチ、脳血流シンチなどが代表的な検査です。検査には6名の診療放射線技師、4名の放射線科専門医に加えて循環器内科医や神経内科医、脳神経外科医が関わっており、主に脳・心臓・内分泌・悪性腫瘍等の疾患に対する診断を行っています。

当センターでは核医学イメージング装置として、PET-CT装置1台、シンチレーションカメラ2台が稼働しています。PET-CT検査は最新のがん画像診断方法であり、平成18年に導入されました。主に悪性腫瘍の発見や、再発・治療効果判定の診断に活躍しており、1度の検査でほぼ全身を調べることができる画期的な検査です。シンチレーションカメラのうち1台は、平成23年にCTが装備された新機種が導入されました。これにより以前よりも精度の高い解析・診断画像を提供することが可能になっています。

頭頸部外科

耳鼻咽喉科／頭頸部外科　山田 南星

頭頸部とは、鎖骨より上方で、目、脳を除いた領域をいいます。主に、鼻副鼻腔、口腔や咽喉頭、頸部の病変を担当します。頭頸部外科の扱う病変の主体は、その領域の腫瘍性病変になります。感覚器や呼吸、発声、嚥下に密接に関わっている領域ですが、組織に余裕がないため、機能温存と根治性のバランスととることが難しい部位です。頭頸部癌診療においては、根治性を損なわず、機能温存も考慮し、放射線化学療法を選択したり、再建手術を考慮したりします。また、下咽頭癌や喉頭癌にて喉頭摘出を余儀なくされ、音声機能を失った方には、気管食道シャントの留置型ボイスプロテーゼの挿入も可能で、これにより音声獲得が以前より容易になってきました。また、神経刺激器も積極的に導入し、甲状腺腫瘍における反回神経や耳下腺腫瘍における顔面神経の温存に非常に有用なものとなっております。

頸部や顔面の腫瘤病変に関して、相談いただければと思います。

地域医療連携センター部からのお知らせ

入退院管理室について

入退院管理室長　直原 修一

これまで病棟からの依頼によって退院調整を開始していましたが、退院可能な時期とのずれが生じて在院日数が長くなり病床の有効利用ができないことがありました。これを解決するため、当院では総合外来センターに入退院管理室を開設しました。

入退院管理室の業務は、主治医が発行する「入院期間票」の情報による早期からの退院調整の促進です。「入院期間票」には、①入院予約をしたとき、あるいは緊急入院で予定外の入院をするときなど、すべての入院患者さんに対して入院期間の目安と具体的な退院日。②適用されるクリニカルパスの有無。③退院後は在宅なのか他院への転院なのか等の3項目を記入します。

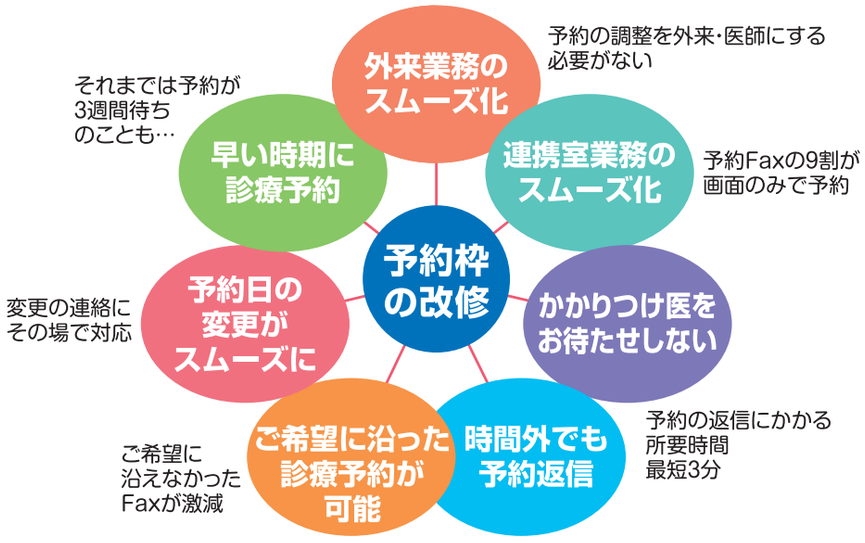
さらに、クリニカルパスの適用のない患者さんには「入院から退院までの流れ」を示した「入退院パス」を発行します。これによって、入院する前から入退院の流れを理解していただき、入院に対する不安を軽減すると共に、急性期治療の終了後の退院先を早期から調整していただくことが可能となります。

電子カルテ上の病床管理表という入院患者一覧表のなかで運用しますので、病棟ごとや診療科ごと、主治医ごとなど院内のすべての患者さんについて入院時から退院予定日の閲覧ができることになり、病床の有効利用と在院日数の短縮がはかれるものと期待されています。

連携室より近況報告

昨年10月より平日20時まで、土曜日は13時まで連携室を開けて診療予約に対応しております。それに先立ち、時間外でも外来に問い合わせることなく、画面のみで予約がとれるよう、システムを整えました。その効果を図示してみました。

連携予約枠を改修した効果



まだまだ十分とは言えませんが、かかりつけ医の皆様のニーズに応えられるよう更に努力してまいります。

専門外来からのお知らせ

当院診療担当表に載っています専門外来は、完全予約制になっております。紹介状をお持ちになられても、予約なしの当日初診は対応しきれないこともありますので、必ず連携室を通してご予約いただけますよう、お願い申し上げます。

編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部新聞第26号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしています。

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター
〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
地域医療連携センター部直通　TEL（058）249-0017
FAX（058）248-9334

発行／岐阜県総合医療センター地域医療連携センター部